

令和6年度天皇誕生日祝賀レセプション 林大使挨拶

2025年2月19日 於大使公邸

本日は、令和6年度天皇誕生日祝賀レセプションにお越し頂き、誠にありがとうございます。私が駐ブラジル大使として4回目となる天皇誕生日祝賀レセプションを、皆様とともに盛大に開催できますことを大変嬉しく思います。

本日のレセプションは、2019年に即位され、今月2月23日に65歳になられる、第126代・徳仁（なるひと）天皇陛下の御誕生日を祝して開催するものです。徳仁天皇陛下は、当時皇太子殿下として、1982年に国際親善のため、2008年に日本人ブラジル移住100周年の機会に、また、2018年に世界水フォーラム出席のため、ブラジルを三度訪問されました。このように陛下は、ブラジルとは深いつながりを持っています。

さて、昨年は2月の上川陽子前外務大臣に始まり、5月には日本の総理大臣として10年ぶりに岸田前総理大臣が、さらに11月には石破総理がG20リオデジャネイロ・サミットへの出席のため訪

伯されました。日本の総理大臣が１年に２度ブラジルを訪れるのは、歴史上初めてのことです。総理による２度の訪伯ではいずれもルーラ大統領との首脳会談が行われ、自由・民主主義・法の支配・人権といった基本的価値を共有する日伯の「戦略的グローバルパートナー」としての様々な分野での関係強化が確認されました。

そして今年、２０２５年は日ブラジル外交関係樹立１３０周年の記念すべき年となります。日伯両国は、この記念すべき年を「日伯友好交流年」と位置づけ、「次の１０年」を見据えた両国関係の更なる深化に向けた取組を行っていく予定です。

２０２５年の幕開けを祝う、最高のニュースが先週末に発表されました。日本政府はパンデミック後初の国賓として、ルーラ大統領を３月２５－２６日の予定でお迎えする予定です。大統領の訪日予定効果か、最近では普段なかなかお会いできない多くの閣僚の皆様と意見交換をすることが出来ています。各大臣からは、日本との協力関係強化に対する多くの期待が寄せられています。この国賓訪日を更なる推進力として様々な分野での往来がより活発化し、日伯関係の新たな時代の幕開けとなることを期待しています。

経済面でも、日本とブラジルは長年に渡る協力関係があります。

現在ブラジルでは約700社の日本企業が活動しており、日ブラジル経済関係促進の重要な役割を担っております。また、本年4月13日から10月13日に開催される「大阪・関西万博」は、5年に1度一都市で行われる、もっとも重要な国際的なイベントの一つです。6月21日のブラジル・ナショナルデーや万博期間中、ブラジルの各州から多くの経済ミッションや旅行客の方々が訪日されることを期待しています。是非この機会に、日本企業のブラジル進出のみならず、ブラジルから日本への企業進出も含めた、双方向の企業交流が進むことを強く願っています。

本日のレセプションでは、日本関係企業が自社製品を展示しておりますので、ご紹介させていただきます。皆様からみて右側には、ブラジル国内でも広く浸透している、日本企業キッコーマンが販売するブラジル産日本酒「Azuma」をはじめ、日本から日本酒を直接輸入する丸海、ヤマトグループ、JFC トラドブラス社が日本酒を紹介しています。また、丸紅の子会社であるイグアスコffeeがインスタントcoffeeの試飲、味の素と日清食品からは同社の食品の試食をご用意しています。また、乳酸菌飲料で有名なヤクルトからも同社製品の試飲があります。

皆様向かって左側には、日本の航空会社 JAL と旅行会社 JTB が皆さんの次の日本への御旅行に関する相談にお答えします。その他にも、衛生用品の花王、医薬品の久光製薬、電化製品のパナソニック、自転車・釣り用品で有名なシマノが出展しています。ブラジルに進出している日本企業の幅広さを実感して頂けるラインナップになっているかと思います。是非それぞれのブースを訪れてください。

2025年、日本とブラジルの政府、議会、経済、日系社会など様々な分野で関係が一層発展することが期待されます。日本とブラジルの関係は、おいしい日本酒やブラジルコヒーのように、いつも身近ですばらしいすばらしいものです。日本大使館は日ブラジル関係を更に強化するために、これからも最善を尽くして参りますので、皆様のご支援のほど宜しくお願いします。最後に、ご列席の皆様のご繁栄、日ブラジル関係の更なる発展を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)